

# 令和4年度 都市政策部組織目標

<b>組織名</b>	都市政策部	<b>部長</b>	柳田 芳広
<b>組織の目的・方向性</b>	人口減少、超高齢化が進むとともに、SDGs やゼロカーボンシティが掲げられるなど、様々な社会経済情勢の変化への対応が求められるなか、地域主体のまちづくり、持続的に発展する都市づくりを進めることで、日本海国土軸形成の一翼を担う「日本海拠点都市」としての拠点性向上を図ります。		

## 都市政策部組織目標

働き方改革やワークスタイルの変化、最新のデジタル技術を活用したまちづくりなど、成熟社会を起因とした社会情勢の変化に柔軟に対応しながら、新潟市の強み・特色を磨き上げ、歴史・文化・自然（田園）が共存する、魅力にあふれた、安心して暮らしやすい、将来に渡って持続可能な都市づくりを進めます。

新潟広域都市圏の拠点である、新潟駅の在来線全線高架化の効果を最大限発現させるとともに、新潟駅・港湾・空港・高速道路を備える本市の強みを生かしつつ、物流、賑わい交流のさらなる拠点化に、国や県、民間企業とも連携した総力戦で取り組みます。

さらに、安心・安全な社会基盤整備を進めるため、技術系職員の人材育成を図りながら、公共工事の品質確保に取り組みます。

これらの方針のもと、都市政策部は今年度、次の5つの目標に重点的に取り組みます。

### 重点目標

- 1 本州日本海側唯一の政令市・新潟の拠点性を高めます。
- 2 日本海拠点都市、防災・救援首都として「新潟駅」「新潟港」「新潟空港」の機能強化に取り組みます。
- 3 持続可能な公共交通体系の改善や拠点間の連携強化に取り組みます。
- 4 まちなかの活性化や地域の多様性を活かした個性あるまちづくりの促進に取り組みます。
- 5 技術系職員の人材育成と公共工事の品質確保に取り組みます。

※重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

### 評価

<b>取組結果</b>	<b>重点目標の達成状況</b>	<b>目標数</b>	5	<b>達成数</b>	4
	<p>「日本海拠点都市」としての拠点性向上を図るため、地域主体のまちづくり、持続的に発展する都市づくりを、公民連携により進めました。</p> <p>『1 本州日本海側唯一の政令市・新潟の拠点性を高めます。』（達成）</p>				

今後の本市の都市づくりの基本方針となる、新潟市都市計画マスタープランについて、有識者や関係機関との意見交換を踏まえながら、将来イメージパースの作成や掲載写真の募集などを行い、分かりやすい計画となるよう改定作業を進め公表しました。

新潟都心の都市デザインの具現化に向け、人を中心とする新しいまちづくりを目指し、地元関係者などとの公民連携により「新潟駅・万代地区周辺将来ビジョン」を策定しました。

## 『2 日本海拠点都市、防災・救援首都として「新潟駅」「新潟港」「新潟空港」の機能強化に取り組みます。』（一部未達成）

新潟駅周辺整備事業では、鉄道在来線の全線高架化工事が完了し、約60年ぶりに新潟駅が新しくなりました。民間の商業施設での事業PR展の開催や動画の作成、SNSを活用した情報発信を広く展開しました。

国際拠点港湾である新潟港では、新型コロナによる上海港の封鎖や釜山港の混雑など海上物流の混乱が影響し、輸出の実入り貨物量は目標に届きませんでした。

## 『3 持続可能な公共交通体系の改善や拠点間の連携強化に取り組みます。』（達成）

利用が低迷し非効率な運行となっているバス路線等の集約化を図る、新たな移動手段「エリアバス×タク」について、1地区の導入を実施しました。また、新たな拠点駅となる（仮称）上所駅整備事業では、詳細設計を完了し、工事にかかる施行協定をJR東日本と締結し、事業の推進を図りました。

## 『4 まちなかの活性化や地域の多様性を活かした個性あるまちづくりの促進に取り組みます。』（達成）

民間企業による「新潟市スマートシティ協議会」の自立的運営を目指し、活動支援を行いました。

屋外広告物について、昨年度の社会実験を踏まえ、工事用仮囲いに対する条例適用除外規定の本格実施をしました。

都市再生特別地区の計画提案を受け都市計画決定をした、「新潟駅南口西口地区」について工事着手をしました。

新潟港の交流拠点化推進を目的に、万代島多目的広場（通称：大かま）で感染症対策を講じたイベント開催し、前年度を超える利活用促進が図られました。また、公民連携で新潟駅・万代地区周辺の将来ビジョン実現に取り組み、誘導・案内サインを地域のにぎわい創出に活かすこと目的に、万代島地区サイン整備実証実験を行いました。

	<p>『5 技術系職員の人材育成と公共工事の品質確保に取り組みます。』（達成）</p> <p>民間の関係者の協力のもと、実地研修を開催し、机上研修のみでは得難い技術力の向上に努めました。</p> <p>併せて感染症予防対策を踏まえ、Web会議システムを利用した研修を開催し、過去のアンケート結果などから内容を見直すことで、受講者の理解度向上を図りました。</p>
<p>今後の方向性</p>	<p>新型コロナウイルス感染症については、明るい兆しが見えはじめましたが、その後の社会像をしっかりと見極めながら、人口減少・超高齢社会の進展、SDGs やゼロカーボンシティの実現に向け、改定した都市計画マスタープランを指針に着実にまちづくりを進めていきます。</p> <p>公共交通をとりまく様々な課題を踏まえつつ、求められる市民の足として、持続可能な都市機能の確保に取り組んでいきます。</p> <p>新潟駅の在来線高架化工事完了と併せ、約60年ぶりに新しくなった駅舎が姿を現し、都市再生緊急整備地域の指定が相乗効果となり、民間ビル開発に活発化の動向が出ています。これらチャンスを逃すことなく、策定した「新潟駅・万代地区将来ビジョン」の具現化を図っていきます。</p>